

お父さんとお母さんへ

ラジオネーム：ときこ

まさか『天国への手紙』なんてものを書くことになるとは思わなかった。

父は働き盛りの時に亡くなり、母が亡くなってちょうど8年という時間が過ぎました。

自分も50代になって、子供達もそれぞれ成長してきました。子供が皆小さい頃とは、全然質の違う心配事も増えます。

旦那は「俺も、お前もさあ、同じように親に心配かけたり、反抗したり、隠し事したりして大きくなったんだろうが、

変わらないよ。俺たちなりに良いと思うしつけをして、

子供達は『だってえ…』とか思いながら従ったり、反発しながらやってくもんじゃないの。子供のこと、あんまり細かなことまで心配しなくても大丈夫だよ。」

と言います。

ある日、ふと母の事を思い出したのです。

父は夜多くまで仕事をしていた状態が続いたので、我が家は何事も母が全てを背負っていました。

でも、その割に母は口うるさくはなく、いつもにこにこして、勉強しろとはうるさく言わず、遊びなども、

友達と遅くまで出かけてもしつこく怒ったりは
しませんでした。

今なら理解できますが、仕事だけに関心を傾けて一生懸命
だった父を信じて、面倒なことを全て引き受けていた母の
大変な思いを無意識に理解していた私に向けた、

あのいつもの笑顔が、私に「これはやっちゃんいけない」と
いう無言の指導になっていたんだなあという事です。

親が子供達の思いや行動を、まるで監視するような態度に
なると、子供はかえってその視線を嫌い、普通のことまで
話してくれないようになるかも…と思いました。

改めて、懸命に働き続けた父と、沢山の苦労があったのに
ニコニコしていた母に感謝しなくちゃだよね…と

毎日思う事で、私自身の笑顔も増えてきた気がします。

お父さん、お母さん、本当にありがとうございます。

リクエスト曲

／ お母さん 森 昌子